

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和2年度採択）

中間評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
2020-4	ダブル連結トラックおよび貨物車隊列走行を考慮した道路インフラに関する技術研究開発	東京海洋大学 教授 兵藤 哲朗	A
<p><研究の概要></p> <p>車両数の継続的な増加が見込まれている全長 23m 超のダブル連結トラックや、数年後の商用化が期待される隊列走行について、SA/PA における駐車場確保の問題や、走行区間延伸の課題が懸念されている。さらには、連結・解除を行う拠点の配置や規模、機能についても十分な分析がなされているとは言えない。本研究では、それらの課題について、先進的な実データも用いた定量的分析を加え、道路インフラが備えるべき将来像を提示することを最終目的とする。</p> <p><中間評価結果></p> <ol style="list-style-type: none"> WG1、2、3 の間の連携によって得られる分析結果を最終年度には是非示して頂きたい。 ダブル連結トラックの路線拡大や休憩施設の拡充の実務的な検討にすぐに活用できる内容であり、成果が期待される。 ダブル連結トラックおよび貨物車隊列走行を物流施設とリンクさせる点は興味深い。これらの施策を行う費用と便益の比較が必要である。 <p><参考意見></p> <ul style="list-style-type: none"> WG2 の走行可能区間・路線を延伸した場合の影響分析については、最短経路探索での比較を行っているが、広域迂回路としての効果も考えられるのではないかと。WG1 の検討で挙げられたダブル連結トラックの課題である「⑤気象変化による通行止め時の対応の充実」にも対応すると思われる。 今後、ダブル連結トラック、隊列走行を考慮した道路インフラの整備は重要と考えられるため、本研究の社会実装の方法や適用範囲も明確して頂き、実社会で導入可能な施策の提案となるように、研究を加速化して頂きたい。 			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第 45 回新道路技術会議において審議したものである。